

学校施設の長寿命化対策について

本町の多くの学校施設は、昭和40年代後半から50年代にかけて建築され、建築後30年を超える建物が全体床面積の74%を占め、老朽化による建物自体の寿命や設備の不具合等の課題を抱えています。また、少子化などの社会状況や教育内容・教育方法等の多様化、防災機能の強化、バリアフリー、環境への配慮など、学校施設へのニーズが時代とともに変わり、必要な機能を十分維持できなくなりつつあります。

公共施設の老朽化の進行や財政負担の増加などは、本町の学校施設に限らず全国的な共通の課題となっており、国では公共施設等の総合管理計画策定を各自治体に求めています。

このような中、本町の公共施設の合計床面積の約60%を占める学校施設についても、施設の今後の老朽化対策や維持管理について検討すべき時期を迎え、適切な施設改修や維持管理、施設の有効活用、財政負担の平準化などの公共施設マネジメントが求められています。

平成24年度から令和3年度までの10年間で実施した施設改修工事の実績は、資料1-2のとおりです。

令和元年度と令和 2 年度の 2 か年で、全小中学校の全ての普通教室、特別教室に空調を整備しました。

また、令和 4 年度には、諸輪小学校昇降機改修と南校舎屋上防水改修、春木台小学校昇降機改修と南校舎トイレ改修、春木中学校南校舎トイレ改修を実施し、令和 4 年度末時点でのトイレ洋式化率の見込みは、下表のとおりです。

学校名	洋式化率	学校名	洋式化率
東郷小	83.6	東郷中	67.5
春木台小	63.0	春木中	53.1
諸輪小	67.7	諸輪中	65.4
音貝小	55.2		
高嶺小	84.4		
兵庫小	95.2		

※校舎、体育館、屋外を含めた学校全体のトイレ洋式化率です。

トイレの洋式化、空調整備は進んでいるものの、今後は校舎の長寿命化が課題となってきます。